

タイ NPO 法人における中高生へのキャリア教育 —Yaowawit School におけるホスピタリティ職業教育を例に—

日 坂 幸 司

要 旨

タイにおける高等教育機関でのキャリア教育は、日本のものとはかなり異なる。長年訪問しているタイのパンガー県にあるNPO法人“*The Children’s World Academy*”の運営するYaowawit School Kapongが前期中等教育と後期中等教育の職業教育プログラム (*Pre-Vocational Hospitality Program*) を実施する教育機関としてタイ政府より国内で最初のモデル校として認定された。タイにおけるキャリア教育としてのホスピタリティ教育に関して考察することとする。

キーワード：タイ王国、日本、キャリア教育、職業教育、ホスピタリティ教育

I. はじめに

2011年より開始している「海外航空実務概論」という授業でタイ王国パンガー県のNPO法人*The World Children’s Academy*が運営するYaowawit School Kapong (以下 Yaowawit Schoolとする)に毎年訪問しているが、昨年で7年目となった。参加した桜美林大学の学生はすでに約70名に達しており、タイの子供たちと日本の大学生の交流は図られ、相互理解に役立っている。

そのYaowawit Schoolは2017年にタイ政府より“*Yaowawit Pre-Vocational Hospitality Academy*”としてホスピタリティ教育を実施する教育機関であることを認定された。

タイでは後期中等教育 (以下高等学校と呼ぶ) 卒業後の専門学校では職業訓練は活発に行われているが、中学生と高等学校生を対象としたホスピタリティの職業訓練は初めてである。Yaowawit Schoolのホスピタリティ教育を例にタイにおける教育制度、キャリア教育を紹介し、職業教育の開始する時期の若年化の背景を考察したい。

Ⅱ. タイにおける教育制度

1. タイにおける教育制度

タイの人口は6701万人で日本の約半分に当たり、18歳未満の人口は1486万人、一人当たりのGNIは5378米ドル¹、識字率は高く(表1)いわゆる開発途上国ではなく中進国といえる。タイの教育制度は、2年から3年の就学前教育(以下幼稚園とする)、6年間の初等教育(以下小学校とする)、3年間の前期中等教育(以下中学校とする)、3年間の後期中等教育(以下高等学校とする)、4年間の高等教育(大学など)の制度の下、小学校から中学校までが義務教育で就学率は96.8%、中学校及び高等学校の就学率はそれぞれ75.1%、46.5%(2013年)となっている(表2)。また、学校での教育は普通教育の一般学校と、技術・職業訓練を受ける職業教育学校があり、職業教育学校は特定の職業に必要なとされる技能及び知識の習得を目的としている。主な専攻分野に、産業貿易、商業・経営、芸術、家計、観光業、農業、漁業がある。²

表1 タイにおける識字率

	人数	%
タイ語	58,160,132	
読み書きができる	56,076,929	96.42
読み書きができない	1,927,036	3.31
無回答	156,167	0.27
外国語	58,160,132	
読み書きができる	9,282,186	15.96
読み書きができない	48,489,803	83.37
無回答	388,142	0.67

*2010年タイ王国 国家統計局のデータに基づき筆者作成

2. タイにおける職業教育

学校教育は教育省(Ministry of Education)の職業教育委員会(Office of Vocational Education Commission)が主幹となり職業訓練を展開している。在職労働者および失業者、貧困家庭の子弟への職業訓練は労働省(Ministry of Labor)の技能開発局(Department of Skill Development)が担当している。

2002年に制定された職業技能開発促進法(Skill Development Promotion Act)は、労働者の技能向上を促進する職業訓練に民間企業訓練機関との協力関係を推進することを目的とした職業技能開発制度と職業訓練を実施していない被雇用者数の割合が多い企業へ拠出金の納付を義務付ける技能開発基金が主な内容である。

外国政府などからの支援も多く行われ、タイ・ドイツ職業訓練学校(Thai-German Institute: TGI)、タイ・フランス イノベーション研究所(Thai-French Innovation Institute :

TFII)、泰日工業大学 (Thai-Nichi Institute of Technology : TNI)、タマサート大学シリントン国際工学部 (SIIT) などがある。

表2 教育課程と各課程修了後の学位・資格

教育課程	標準修業年限	標準年齢	修了後の主な学位・資格	技術職業教育課程
就学前教育	2～3年	3～5歳		
初等教育 (小学校) (義務教育)	6年	6～11歳	初等教育修了証明書	
前期中等教育 (中学校) (義務教育)	3年	12～14歳	前期中等教育修了証明書 (Maw 3)	プリ職業教育
後期中等教育 (高等学校)	3年	—	中等教育修了証明書 (Maw 6)	職業教育修了証明書 (Paw Waw Chaw)
				プリ職業教育
中等後教育	2年	—	—	技術職業教育ディプロマ 上級サーティフィケート (Paw Waw Saw) ※修了後、学士課程に編入可
	2年	—	—	技術職業教育上級ディプロマ (Paw Taw Saw)
高等教育	2～3年	—	上級ディプロマ ※修了後、学士課程に編入可	
	4～6年	—	学士	
	1年	—	グラジュエート・ディプロマ	
	1～2年	—	修士	
	1年	—	上級グラジュエート・ディプロマ	
	2～3年	—	博士	

* 「独立行政法人大学評価・学位授与機構 タイ高等教育の質保証」を基に筆者作成

表3 対象年齢に占める就学者数とその割合

	年齢	就学者数	対象年齢人口	対象年齢に占める就学者の割合 (%)
小学校	6-11	4,935,721	4,745,773	104.00
前期中等教育 (中学校)	12-14	2,497,692	5,483,670	84.60
後期中等教育 (高等学校)	15-17	2,141,289	2,925,949	73.18

* Educational Statistics in Brief, Office of Permanent Secretary, Year 2012 を基に筆者作成

職業教育は①サーティフィケート (Certificate) 課程³、②ディプロマ (Diploma) 課程⁴、③大学 (職業教育) 課程 (Bachelor Degree)⁵に大きく分類される。

1995年にドイツの協力の下で導入されたDual Vocational Training Program制度は、職業高等学校3年と高等専門学校2年の半分以上を民間企業での実務に充てる人材育成を目的とした職業訓練プログラムである。具体的には、1週間のうち1～2日間又は1学期のうち数週間を学校教育に充て、その他の時間は人材育成プログラムとなる。ホテルまた小売業の経理や秘書業務という商業分野、工業分野、サービス・芸術・工芸分野で導入されており、同制度を通じて実習先で就職が決まる場合も多い。

3. タイの大学におけるキャリア教育

タイでは職業訓練校が存在することから一部の大学でのキャリア教育を除き、大学でのキャリア教育は実施されていない。大学は専門の研究職を育成することを目標としており、職業訓練は大学ではない職業専門校で実施される。したがってタイの大学では日本の就職支援制度に当たるキャリア教育制度は存在せず、またリクルーター制度のようなものもない。ただし、3年生から4年生の間に1ヶ月から6ヶ月程度の企業などでインターンシップを経験することが出来る大学は存在する。

多くの大学新卒者は、3月に大学を卒業し4月～7月ごろに行われる卒業式が終了するまでは就職しないケースも多く、卒業式後にゆっくりと進路を決める傾向にある。その後、各企業のWEBサイトなどからの応募案内を参考に一軒一軒ドアを叩いていくのが就職活動の一般的なスタイルとなる。大学在学中にアルバイトをするような機会も少ないことから、日本の大学生と比べ社会との接点は少ない。インターネットの求人サイトは存在するが多くが即戦力者を対象としており、新卒者向きではないと言える。

4. 日本の大学におけるキャリア教育

大学では就職委員として学生に将来の進路を決める指導を行っているが、大学1年生からキャリア教育を充実させる必要があると痛感することがある。3年生からでは真の職務適正を見出せないままに、単に職業や職種に対する憧れで就職活動を開始するケースが多い。大学入学前に「社会の中での将来の自己の姿」を描き、自分の職業観を形成させて大学進学そして学部選択させることが本来理想ではないかと考える。

日本における「キャリア教育」の目的は「人生の方向性を明確にし、将来の自分のあるべき姿を描く」ことであり、高等学校では「進路指導」と呼ばれている。「キャリア教育」とは、「基礎能力開発教育」「職業教育」、そして「キャリアデザイン教育」からなる。

「基礎能力開発」は、コミュニケーション力、問題解決力、判断力、思考力などの開発であり、人としての素養がいかにあるべきかを学ぶことである。これらの要素は本来家庭内教育とか社会とのつながりの中から学ぶべきと考える。上述の4つの要素は、それぞれが関連づいており考える力があれば、問題認識ができ、その問題に対峙するために判断する

ことができる。この過程で人とのコミュニケーションを通じ自身の考えを述べ、新たな気づきが生まれる。したがって、大学の4年間で可能なことは気づく力・分析する力を開発することとも言える。

「職業教育」は、学校の就職課やキャリアセンターにおいて自己分析、業界・企業研究、就職試験対策が主な内容となる。

「キャリアデザイン教育」は、自己の適性を踏まえた人生の方向性を自ら考え選択肢を見出すという教育で、「キャリア教育」での最終段階にあたる。

5. タイと日本の職業選択の違い

日本では「若年層の価値観の多様化」「人材の流動化」を問題とするが、タイにおいては、教育レベルの高い人材は西欧型の契約に基づく長期雇用が一般的である。

しかしバンコクなどの大都市でない地方のタイ社会では、地場産業の長期雇用という概念は雇用主側に薄く、雇用契約も明確でないことが多く、おのずと人材は流動化する。雇用される側の従業員からすると、仮に長期雇用が保証されていても複数の競業企業が存在するような業界や地域では、労働環境や賃金などが優遇された職業に簡単に転職する。西欧型ではないものの、人材は常に流動化する傾向にある。

大学を含む高等教育に進学する者が60%を超える日本では、大学卒業者は労働市場にとっては大きな採用マーケットであり、社会に出てから適応力を養いミスマッチを極小化するためにキャリア教育はより充実させる必要がある。一方タイの大学進学を含む高等教育（専門学校また通信制大学を含む）への進学者は近年大幅に増加し50%を超えるものの地域格差があり地方の貧困家庭からの大学進学者はまだまだ少なく、仮に高等学校を卒業しても第一次産業また第二次産業で就労する者も多い。したがってこれらの学生にはより具体的なスキルを修得できるキャリア教育つまり職業教育が必要となる。

Ⅲ. Yaowawit Schoolのキャリア教育

1. Yaowawit Schoolの概要

2006年4月24日 Yaowawit Schoolは、タイ王国の王女マハチャクリシリントーンを招き正式に全寮制の私立学校として開校した。創設者のPhillipp Graf von Hardenberg氏は2005年2月スマトラ沖地震⁶に伴う津波で重大な被害を受けた「バンガー県」を視察した後、2006年2月に“The Children’s World Academy Foundation” (The CWA) を設立し、津波で親を失った4歳から17歳までの子供たちと貧困で教育が十分に受けることができない子供たちを中心に80名の寮生から開校された。現在は、バンガー県、スラタニ県、クラビ県などから140名ほどの子供たちが入寮している。

幼稚園と小学校はタイ教育省の指導要領に従い学内に併設され、中学生と高等学校生は近隣の学校に通学している。教育が貧困の連鎖を断ち切る一番有効な手段と位置づけ、ライフスキル教育⁷を将来子供たちの生活の助けとなり成功に導くものとしている。

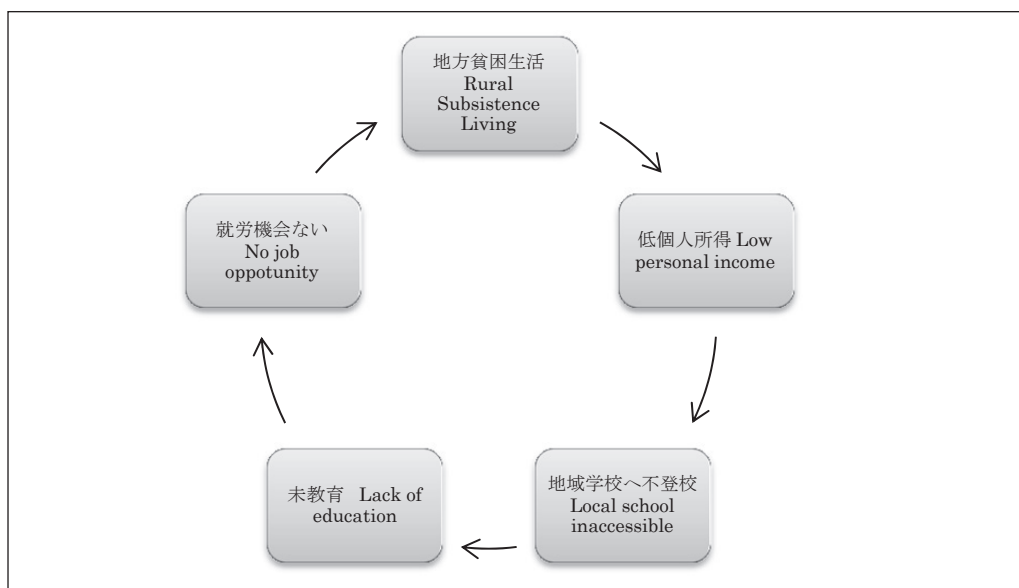
Yaowawit Schoolのミッションステートメント⁸(表4)は以下の通りである。

表4

<p>Mission Statement</p> <p>Yaowawit School Kapong is a community where the well-being and care of all people is our highest mission.</p> <p>We pledge to provide a first-class education, which helps children to become open-minded, confident, caring, and happy human beings.</p> <p>Yaowawit School Kapong benefits its neighborhood and makes a positive difference in everybody' s lives</p>

Phillipp氏が唱える貧困の連鎖⁹は以下の通りである。(図1)

図1



田舎での貧しい生活は低収入で、子供たちは学校に通えず十分な教育を受けることができない。それが知識、技量、思考力に反映し収入の高い仕事に従事することができない。それは貧困家庭の子供が成長し、親となっても貧困にあえぐことを意味している。

2. Yaowawit Schoolのリソース(施設およびスタッフ)

初期に設置された施設はPhillipp氏が提供しているか、学校開設後は法人スポンサーが寄付として提供している物品が多い。例えばソーラーパネルはドイツの企業が寄付をした。以下が学校の施設およびスタッフなどのリソースである。

表5

教員・スタッフ (タイ人)	38名
教員・スタッフ (外国人)	4名
外国人ボランティア	5名
スタッフ寮	5棟
生徒寮	6棟
クラスルーム (幼稚園・小学校)	9室
生徒用カフェテリア	1棟
コンピューター室	1室 (パソコン20台)
ホスピタリティ 訓練室	1室
図書室	1室
体育館兼シアター	1棟
ゲスト用宿泊室	16室
メディテーション用寺院	1棟
プール (25m)	1施設
サッカー球技場	1施設
農場	120,000平方メートル
ソーラーパネル	1,600平方メートル

* “Portfolio 12 years of the Children’s World Academy Foundation and Yaowawit School” より筆者作成

3. Yaowawit Schoolのカリキュラム

Pre-Vocational教育機関として認定されてから一部カリキュラムは変更となっているが、大きく3つの要素に分類することができる。

3-1 ライフスキル教育

主に技量修得を目的とした教育である。子供たちが将来生きるために有効な教育である。英語によるコミュニケーション教育、ITおよびメディアの教育、ツーリズムとホスピタリティの知識と技量教育、農業関連の知識と技量教育である。これらは課外でクラブ活動と併用して実施されている。

3-2 タイ教育省認定の幼稚園と小学校教育

幼稚園3年間と小学校6年間はタイ教育省が定める義務教育としてのカリキュラムで授業を行い、主に時間外学習として上記のライフスキル教育を実施する。

3-3 社会協調力・自己開発力・自己分析力を高める教育

創造的な発想、自己能力の発見、チームワーク、仏教的な価値観の助長を目的に主に休

日の土曜日または日曜日にクラブ活動や集団活動を通じて実施されている。男子は体育会系クラブに所属する者が多くバレーボールやサッカー部、IT関連のホームページなどのメディアを作成するパソコン部などに所属している。女子はホスピタリティ・調理部、ダンス部、手芸部、また男女共に軽音楽部に多くの生徒が参加する。また農業部は野菜などを育てるだけでなく、収穫したレモングラスからオイルを採取し石鹸・虫除けスプレー・化粧水などに加工し校内で宿泊者に販売している。

また仏教的な価値観の助長は仏教徒が多数を占めるタイでは当たり前であると考えがちではあるが、生徒の一部にはイスラム教徒もいることから、宗教行事は強制的なものではない。毎日午後8時より30分間の瞑想する時間を設けているが瞑想するスタイルは各自に任されている。その後1日の反省会を実施している。

4. 卒業生の進路

表6

年	卒業生数	高等教育	就職	その他
2006	7	1	5	1名死亡
2007	12	3	9	
2008	13	3	7	1名死亡
2009	10	2	8	
2010	5	3	2	
2011	12	8	4	
2012	9	8	1	
2013	9	6	3	
2014	12	10	2	
2015	9	9	—	
2016	16	13	—	
Total	114	66	41	

* “Portfolio 12 years of the Children’s World Academy Foundation and Yaowawit School” より筆者作成

2006年から2016年4月までに114名の卒業生を輩出している。(表6) 卒業生の58%は大学をはじめ職業訓練校などの高等教育機関に進んでおり、進学率は高い。

卒業生の中には国費による留学試験に合格し、オランダ、オーストラリアに進学をした者もいる。就職をしているものは36%であるが、英語が流暢であるとプーケットやクラブの大手外資系ホテルなどに就職できた者もいる。

全寮制の学校であることから、同学年のつながりだけでなく上下の先輩後輩のつながりも強いことから、これらの先輩たちの成功体験は受け継がれる。

5. Yaowawit Schoolにおけるライフスキル教育としての英語力

Yaowawit Schoolの高等学校生は、いわゆる「貧困の連鎖」から抜け出した状態、いや抜け出そうとしている状態といえる。

タイの地方社会では、一般に生きるためには職を選べないという開発途上国ではよくある状況が背景にある。しかしながら、Yaowawit Schoolでは入校時の4歳から英語教育を行い、生徒たちを集団生活という一定のルールの下で生活させ、思考させ、判断させ、それを発信させるコミュニケーション力を養わせ、人としての基礎能力を授けるプログラムを実施してきている。

タイの地方で職業選択の幅も少ない中、自己の適性、いや自己の憧れではない現実に即した希望を踏まえた将来の方向性を明確に見定めている生徒が多い。この意味からはすでに社会が求める基礎能力開発という教育は高いレベルにあるものと考えられる。

そこで社会の求める職業教育を提供できライフスキルが修得できれば、より将来の道が具体的になり、職業選択の機会が増加する。この点からも幼稚園からの英語教育は有効である。特にヨーロッパからの外国人ゲストが多く、また外国のインターナショナルスクールや各国の学生とも交流する機会があることから異文化理解力もある。英語力があり異文化への理解力もある生徒は進学も就職も希望する道に進むケースが多い。

IV. Yaowawit SchoolのPre-Vocational Hospitality Program

1. Pre-Vocational Hospitality Programの概要

日本の高等学校生はアルバイトなどを行う機会も多く、社会性は一定レベル以上な者が多い。

Yaowawit Schoolの生徒は、中学校からは地元の公立校に進んでいく。このことは、Yaowawit Schoolがよき環境であるものの閉鎖された社会で学び生活してきた小学生がいつべんに隔離された状況から、田舎とはいえ同世代の生徒とまた一般社会と交わることとなる。

このギャップは中学校入学にともない顕著となる。生徒たちは、お金を出して物を買うという貨幣経済にさらされ、物を手に入れることの難しさを知る。携帯電話を欲しがらる。これまで週1回学校から支給される20バーツ(2017年11月現在 約70円)のお小遣いでアイスクリームを購入してきた小学生がいつべんに高額の物を目にする事となる。

男子生徒は、やんちゃとなり、暴力沙汰となるケースもある。女子生徒は身なりに興味を示し化粧に熱中する者も出る。

学校では寮生活であることから、中学校から帰校後は寮内で学校のプログラムに則り生活する。高等学校に進学すると一般社会との接点もより深まり、刺激は多いが生徒達は落ち着いてくる。寮生活も18歳の高等学校終了後には、社会に出て行かなくてはならないという覚悟が出てくる。

すでに10年の歴史があり、先輩の卒業生の進路を理解できているので、大学・職業訓練

専門の高等教育に進学しようとする者、近隣で仕事をしようとする者、また地元に戻り仕事を探そうとする者とに分かれる。

高等教育に進むものは、その学費と生活費が障害となる場合があるが、奨学金を付与される成績優秀者も多く半数以上の者が高等教育機関に進み、4割の生徒が社会に出て仕事に従事することとなる。

そこでYaowawit Schoolでは2つの職業教育プログラムをタイ政府の承認の下企業・教育機関との連携で設立させた。

ひとつは、ツーリズム・ホスピタリティの実務を学ぶコースで、すでに2009年からロッジで体験できてきた宿泊施設の維持管理と調理、ゲストへ料理の提供などのサービス業務をより進化させることを目標としている。東南アジア地区のマリオットホテルチェーンと提携し、ホテルの教育担当者が講義を行いホテルでの体験学習が生まれ、インターンシップ型の職業体験とホテル経営を学ぶプログラムである。

もうひとつは、The Technical College Phang-Ngaの教員の指導の下に、校内の農園でオーガニックな農作物を生産することを開始した。オーガニック野菜を作り、鶏やアヒルからは卵をとり、池には食用の淡水魚のナマズとティラピア¹⁰を養殖し、ヤギ10頭を飼育し乳からチーズを作るユニークなプロジェクトまで開始している。

ヤギの糞を落ち葉とともに発酵させ、野菜などの堆肥として使用する循環型の農業を目指している。現金収入となるあぶら椰子、ココ椰子、ゴムの木はすでに植栽されており、学校の収入に寄与できている。

農業学習は学びの一環として幼稚園から小学生まで授業の中に体験授業として組み込まれており、部活動と共に活発に機能してきた。当初作物は学校内の消費にあてられ、野菜などの購入費用削減に寄与していたが、一定量以上の収穫があると近隣の朝市などで現金化し収入となっていた。今回導入された農業プログラムは、その生産をオーガニックな循環型の新たなコンセプトのもとで生産から販売まで安定的に実施しようというプログラムであり、その過程で体験実習が可能となることから将来生徒が地元に戻り農業に従事したとしてもその技術と体験は継承され、それぞれの地域での普及が期待できると判断され国の職業教育プログラムとして認可された。

この農業プログラムでできた農作物がオーガニックという付加価値が加わり、将来はプーケットの高級レストランに送られて収入となると思われる。その過程で農業の生産から販売まで学習することができる。タイ教育省はこの農業プログラムをパイロットプログラムと位置づけ今後タイ国内の他の地域へ普及させる取り組みを開始した。

2. Pre-Vocational Program 認定までの沿革

2015年3月

ドイツの慈善団体や公的機関の寄付で文化交流プログラムに参加する学生用に3棟12室の宿泊施設が完成した。

2015年5月

2015年年度の1学期には英語により授業（ミニ・イングリッシュ・プログラム）が香港の国際学校（HKIS）の教員により開講された。

*ミニ・イングリッシュ・プログラム（MEP）

貧困の連鎖から脱却するには英語能力は有効な手段の一つである。バイリンガルなカリキュラムは将来の就職にもまた高等教育に進む道を開くことが可能となる。幼稚園からタイの学習要領に則り英語で科学、数学などの学習を開始している。また放課後国際ボランティアにより図書館で、英語のグループ学習また個人学習を受講できる体制を作った。

2015年6月25日

国立科学技術振興調査員がthe Technical College Phang-Ngaの教員と共に学校を訪問し、カリキュラム管理と教授技術の面で意見交換を行った。このことで学校のプログラムは評価され、タイの教育制度の中でモデルプログラムに位置づけられた。

2015年11月28日～29日

Yaowawitの教員とプーケット国際アカデミー（PIA）学校と合同研修を行った。プーケット国際アカデミー（PIA）学校は高い教育レベル校で2016年10月にはユナイテッド・ワールド・カレッジ（UWC）に認定された。

2015年12月14日

マリオットホテルグループの東南アジア地区執行役員とホスピタリティに関するPre-Vocational教育の一環としてHospitality教育に関する提携の協議を開始した。

2016年1月

ライフスキル教育に着目し、正式に国家制度の下で職業教育を実施すべく検討を開始した。これは、タイ政府と協力しその他の専門教育機関からの助言などを受けつつ、効果的に熟練した専門職の人材を育てる教育カリキュラムの開発を目指すこととした。

2016年8月19日

The Technical College Phang-Ngaとマリオットホテルグループと共に職業教育委員会（OVEC）とMOUを締結し、カリキュラムを共同開発し、ツーリズムとホスピタリティの基本的な職業訓練コースを創設することに基本合意し調印した。

2016年10月3日

プーケットのユナイテッド・ワールド・カレッジの開会式に出席したヨアワン・ヨルダン女王が学校を訪問し、この教育システムをヨルダンでの難民キャンプで採用することを表明した。

2017年3月

Yaowawit Schoolは、農業技術センターと農業学習センターを設立し、農業における職業教育制度の基準に合致する農業カリキュラムを開発するための協定を締結した。

2017年5月18日

タイ王国の王女マハチャクリシントーンはYaowawit Schoolを訪問し“Pre-Vocational

Education Academies” が正式に認証されプログラムを開始することとなった。

3. 基本的な考え方

Yaowawit Schoolだけではなく多くのタイ国内の学校がキャリア教育を実施しているが、シナリオと責務を提示し、子供たちに自己の強み弱みを認識させ、可能性を見出し、失敗から学び、チームワークを学ぶ、いわゆる分析から始まるプログラムである。しかしながら多くの学校では教員がこの実務的なプログラムを導入しても指導することができず成功しないケースも多い。それは多くの教員が実務の世界で経験がないからである。

Yaowawit Schoolが実施するライフスキル教育は、子供たちに自信を持たせ、成功体験を経験させ、問題発見能力を養わせ、周囲の中での自己発見ができる。参加、思考、知識、想像、そして技量と態度に重点を置き、実務を修得できる学習プログラムである。

外部のビジネス界の人材を直接学校に招き入れ、実際のビジネスの世界を紹介し生徒に学ばせることにある。実務専門家は中学校・高等学校でのPre-Vocational教育の指導を機に、実務教育の授業を専門学校・短大・大学でも行い、そして企業内の人材育成教育と連携する一連の流れを確立させることができる。

4. 導入の手段

Pre-Vocational教育設立にあたり以下の組織と提携することとした。

1. The Bureau of Vocational Education, Bangkok
2. The Technical College, Phang-Nga the Division of Hospitality and Science and the Division of Agriculture
3. The Marriott Group, Thailand

4-1 The Bureau of Vocational Educationとの関係

The Bureau of Vocational EducationはYaowawit Schoolに専門的な職業訓練教育システムを創設することを援助し、タイ政府は承認するとともにタイ教育省の支援を受けることとなった。Yaowawit Schoolのホスピタリティ教育と農業教育プログラムは将来のタイでの職業訓練の模範的なモデルとなる。

4-2 The Technical College, Phang-Ngaとの関係

The Technical College Phang-Ngaはホスピタリティ教育と農業教育のカリキュラム作成の中心となり、ビジネスパートナーともなる。職業訓練の専門教員を派遣しプログラム終了時点で生徒の考課を行い資格認証する。またThe Technical CollegeはYaowawit Schoolの生徒を受け入れ、大学の学生をインターンシップ生としてYaowawit Schoolに派遣する。

4-3 マリオットホテルグループとの関係

マリオットホテルグループはホスピタリティ教育でPP&Pベース（公民連携）で職業訓練を提供する。マリオットは教材を提供し、専門家を週単位で派遣する。またYaowawit Schoolとthe Technical College Phang-Ngaから学生のインターンシップを受け入れる。優秀な学生は将来の就職の機会が開ける。

4-4 Yaowawit Schoolの義務

Yaowawitは教室などの必要な施設を提供し、日常の運営とスケジュールを管理する。またこのプログラムが将来のタイ国内の模範となるよう関係者と緊密に連絡を取る。このPre-Vocationalプログラムは多くの学生に日常学習に積極的になる新たな模範となる施策とする。

5. ホスピタリティ教育と職業教育

タイはヨーロッパ各国、また中国・韓国・日本などのアジア諸国を中心に年間3200万人の外国人旅行者が訪れる観光立国である。バンコク・チェンマイなどの大都市はビジネスマンも多いが南部の海沿いのリゾート地には避寒も兼ね多くの外国人が訪れる。その代表がプーケット島であり、クラビやパンガー県のカオラックも外国人の滞在客が多く大手外資系ホテルチェーンも存在する。

これらのホテルや旅行会社などに就職できれば、収入も高く安定した生活ができる。すでに数人の卒業生がホテルまたレストランなどのホスピタリティ産業に就職できている。これはやはり英語力と異文化への対応力、また全寮制の中でチーム力、協調性、バランス感覚などが養われた結果と考えられている。タイ政府が今回のYaowawit Pre-Vocational Hospitality Academyで開発されるプログラムを各地方の教育機関に導入したいと考えている理由は、今後も積極的に観光客を誘致するにはホテルなどのホスピタリティ産業で専門職が不足しているという現実を認識しているからである。

マリオットホテルでの実習は生徒には楽しいものであるが、調理・配膳・ベル業務などの体験を通じて厳しさも学び、将来の就職へ繋げてほしい。

V. まとめ

スマトラ沖地震による津波で孤児となった子供たちに会ってから早いもので10年が経つ。毎年数回通っているが、6歳で入寮した子供はすでに高等学校生となっている。今回創設者のPhillipp Graf von Hardenberg氏に面談できPre-Vocational Hospitality Academyの設置までの経緯や苦労談などを聞くことができた。お忙しい中貴重な時間を割いていただいたことに、心より感謝の意を表したい。

Yaowawit Schoolの運営は創設者Phillipp氏の出身であるヨーロッパからの寄付への依存度は大きい。2012年前後のギリシャ危機では急激に寄付金が減少し、その対応で経費削減

策を子供たちのデザートである果物を提供しなくした。すると1ヶ月後には学校の半数の子供がインフルエンザにかかり医療費が急増した。

NPO運営はまさに従業員満足を目指す会社運営と同じであると実感している。

タイ国内では外国のNPO法人が数多く存在するが、その多くの組織は言語の違いや行政機構の複雑さなどから運営は容易ではない。しかしYaowawit Schoolは教育機関として現在ではパイオニアとなりタイ政府も含め自他ともに認める存在となった。貧困の連鎖を断ちきる教育で育った人材は卒業後タイ国内の多くの場所で活躍しだしている。これが本当の意味での“人財創り”と考える。

今後とも微力ながら協力を行っていきたいと強く感じている。

注

- 1 2013 UNICEF 子供データ https://www.unicef.or.jp/kodomo/data/da_country.htm
- 2 2015厚生労働省「海外情報報告(タイ)」
- 3 小学校卒業程度以上で3年間のコース。中学校卒業程度の認定書が授与される。
- 4 中学校卒業程度の学力または3年間以上の就労経験がある者が対象で3年間コース。修了した者には正規教育課程の高など学校卒業程度の修了書(ディプロマ)が授与される。
- 5 ①の修了者または高など学校卒業程度の者に提供される4年間コース。また、2年間のコースもあり、②の修了者を対象に提供される。プログラムの目的は、すでに就業しているかまたは基本的な職業技能を有する者がその技能を向上させることである。課程を修了した者には、大学職業教育課程卒業証書(Bachelor Degree)が授与される。
- 6 2004年12月26日に発生したマグニチュード9.1のスマトラ沖地震に伴う津波はインド洋アンダマン海に面したタイ、ミャンマーの海岸地域に重大な被害を及ぼした。これに伴いプーケット島のあるプーケット県、隣県のパンガー県、クラビ県、トラン県、サトゥーン県、ラノーン県を中心にタイ政府は5305人の死亡者が出たと発表している。
- 7 Yaowawit Schoolでは、職業訓練と称せずライフスキル教育と呼ぶ。
- 8 Yaowawit School home page より <http://Yaowawit.org/our-mission-and-vision/>
- 9 Yaowawit School home page より <http://Yaowawit.org/our-history/>
- 10 ナイルティラピアと呼ばれ、日本での流通名は「イブミダイ」。1960年代に現在の今上天皇が皇太子時代にタイ王室に献上し、タイではタンパク源として広く普及するようになった。

参考文献

1. ホスミタリティ・マネジメント学原論 服部勝人著 平成18年1月31日発行 丸善株式会社
2. サービス産業のアジア成長戦略 安積敏政著 2011年10月31日発行 日刊工業新聞社
3. 観光立国推進戦略 ヘルスツーリズム概論 羽生正宗著 2011年8月10日 株式会社日本評論社
4. タイの教師教育改革 牧貴愛著 平成24年3月31日 広島大学出版会
5. アジア・太平洋高等教育の未来像 2005年11月20日 編者(財)静岡総合研究機構
6. 株式会社 東信堂
7. 高等教育シリーズ アジア・オセアニアの高等教育 2004年9月30日 編者 馬越徹 玉川大学

出版部

8. タイを知るための72章(第2版) 2014年9月30日 編著者 綾部真雄 株式会社明石書店
9. タイコク経済概況<2014/2015年版> 2015年1月 編集者 保住正保 盤谷日本人商工会議所
10. 世界の統計2017年版 平成29年3月発行 編集 総務省統計局 一般財団法人 日本統計協会
隙
11. 研究双書No568 タイ政治・行政の改革1991-2006 2008年2月28日発行 玉田芳史・船津鶴代；
編 IDE-JETRO アジア経済研究所
12. YAOWAWIT SCHOOL HOME PAGE <http://Yaowawit.org>
13. タイ教育省 (Ministry of Education) <http://www.mis.moe.go.th/>
14. タイ職業教育委員会 (Office of the Vocational Education Commission) <http://www.vec.go.th/>
15. 厚生労働省 2015年海外情勢報告 <http://www.mhlw.go.jp/wp/hakusyo/kaigai/16/dl/05.pdf#search=%27pre+vocational+education+thailand%27>